

Apprire



秋田大学広報誌〈アプリレ〉

No. **32**
2011

特集

東日本大震災
秋田大学ドキュメント



May 2011.05

特集 東日本大震災 秋田大学ドキュメント

キャンパスが大きく揺れ、軋んだ。三月十一日午後二時四十六分。秋田市は震度5強を記録した。何が起こったのか。確認しようとしても、テレビは映らない。窓際に置いたラジオで情報を集めようと試みたが、伝わってくるのは想像もつかない事態が起こってしまった、ということとだけだ。秋田大学は翌十二日に後期試験を控えていた。その対応は。受験生、在学生、教職員の安否は。混乱の中、医療の現場、医学部附属病院も立ち上がった。卒業式のない三月。入学式のない四月。各地で桜の開花が伝えられる季節を迎えても、全体像はつかめない。いつもとは違う春。今回のアプリーレでは「あの日」以後の秋田大学の姿を特集する。

11日(金)

14・46 東北・三陸沖を震源とするM9.0の地震が発生。秋田市では震度5強を観測。(秋田大学) 横揺れが続いた後、停電。学生・教職員が建物から屋外へ避難。大学本部管理棟は停電に伴い、断水。電話回線は異常なし。手形キャンパス内で開催されていた「教育改革シンポジウム」を中止

14・50 附属病院で災害対策本部を設置。直ちに各病棟・部署・施設から損傷の状況について対策本部に報告される。以降、院長及び執行部1名、事務2名(計4名)の当直体制で24時間対応とする。加えて全診療科・診療部門の責任者による病院運営の連絡会が毎日開かれ、対応を検討する

14・55 教育文化学部・医学部・工学資源学部ともに建物内にいた学生・教職員の無事を確認。学生支援課担当施設(学生寮・サ

クル棟関係・体育施設・乳頭ロッジ・保健管理センター)の状況確認を指示

15・15 工学資源学部2号館の貯水槽配管から水漏れの報告が入る

15・17 文部科学省から安否確認の連絡が入る

15・20 学生支援課担当施設について、確認できた範囲ではけが人・建物の被害はなし。また後期試験の下見に来ていた受験生等にもけが人はなし

15・40 学術研究課から放射性同位元素センター(RI)異常なしとの連絡が入る。文部科学省へ報告

15・50 図書館から安否確認の報告。大量の本が書架から落ちた様子。国際交流会館、留学生会館から安否確認の報告

15・55 人事課、財務課、評価課から安否確認の報告



停電の中震災対応を行う

16・00 各課の課長を学長室へ招集。各課の安否確認と今後の対応について検討

16・20 待機要員以外の職員に随時帰宅を指示

16・30 西谷地寮から安否確認の報告

16・45 医学部附属病院より状況報告

17・10 附属病院より秋田市防災センターに確認していた電力復旧の目途について、未だ目途が立っていないとの連絡が入る。自家発電用の重油の確保が必要となり、各所へ連絡。直ちに物流に関する会議を開く

17・15 附属学校園へ安否確認のため電話連絡

17・25 附属小学校・中学校から全員無事との報告

17・30 附属特別支援学校から全員無事との報告



被災地へ向かうDMAT第1班

17・55 後期試験(翌12日実施予定)について、全学部予定通り実施することを決定。震災の影響で受験できない学生については後日救済措置を行うこととする(大学生協では)入試課からホテルに宿泊している受験生に入試を予定通り実施することを知らせる

18・00 後期試験の対応についてプレスリリースを作成。FAXが使えないため、県庁の記者クラブへ持つて行く

18・05 ABSラジオに連絡し、後期試験の対応についてラジオ放送してもらえよう依頼

18・20 学生会館で待機している学生や後期試験の下見にきていた受験生と保護者に生協から食料が提供される

18・35 ABSラジオ、FMラジオで後期試験の実施について放送

18・40 DMAT(災害派遣医療チーム)第1班岩手医科大学へ向けて出発

18・45 後期試験に関するプレスリリースを県庁の記者クラブへ貼り出す

19・23 手形地区、職員の待機解除

19・25 附属病院から非常電源のための重油が残り8時間ほどの連絡

19・40 文部科学省法人支援課へ状況報告

20・40 後期試験の対応について携帯サイトに掲載

23・15 附属病院のエレベーター2基停止

23・20 県の医薬薬事課から附属病院にトリアージ赤・黄の受入れ可能人数について照会

16・00 各課の課長を学長室へ招集。各課の安否確認と今後の対応について検討

16・20 待機要員以外の職員に随時帰宅を指示

16・30 西谷地寮から安否確認の報告

16・45 医学部附属病院より状況報告

17・10 附属病院より秋田市防災センターに確認していた電力復旧の目途について、未だ目途が立っていないとの連絡が入る。自家発電用の重油の確保が必要となり、各所へ連絡。直ちに物流に関する会議を開く

17・15 附属学校園へ安否確認のため電話連絡

17・25 附属小学校・中学校から全員無事との報告

17・30 附属特別支援学校から全員無事との報告

18・00 各課の課長を学長室へ招集。各課の安否確認と今後の対応について検討

18・05 ABSラジオに連絡し、後期試験の対応についてラジオ放送してもらえよう依頼

18・20 学生会館で待機している学生や後期試験の下見にきていた受験生と保護者に生協から食料が提供される

18・35 ABSラジオ、FMラジオで後期試験の実施について放送

18・40 DMAT(災害派遣医療チーム)第1班岩手医科大学へ向けて出発

18・45 後期試験に関するプレスリリースを県庁の記者クラブへ貼り出す

19・23 手形地区、職員の待機解除

19・25 附属病院から非常電源のための重油が残り8時間ほどの連絡

19・40 文部科学省法人支援課へ状況報告

20・40 後期試験の対応について携帯サイトに掲載

23・15 附属病院のエレベーター2基停止

23・20 県の医薬薬事課から附属病院にトリアージ赤・黄の受入れ可能人数について照会

17・55 後期試験(翌12日実施予定)について、全学部予定通り実施することを決定。震災の影響で受験できない学生については後日救済措置を行うこととする(大学生協では)入試課からホテルに宿泊している受験生に入試を予定通り実施することを知らせる

18・00 後期試験の対応についてプレスリリースを作成。FAXが使えないため、県庁の記者クラブへ持つて行く

18・05 ABSラジオに連絡し、後期試験の対応についてラジオ放送してもらえよう依頼

18・20 学生会館で待機している学生や後期試験の下見にきていた受験生と保護者に生協から食料が提供される

18・35 ABSラジオ、FMラジオで後期試験の実施について放送

18・40 DMAT(災害派遣医療チーム)第1班岩手医科大学へ向けて出発

18・45 後期試験に関するプレスリリースを県庁の記者クラブへ貼り出す

19・23 手形地区、職員の待機解除

19・25 附属病院から非常電源のための重油が残り8時間ほどの連絡

19・40 文部科学省法人支援課へ状況報告

20・40 後期試験の対応について携帯サイトに掲載

23・15 附属病院のエレベーター2基停止

23・20 県の医薬薬事課から附属病院にトリアージ赤・黄の受入れ可能人数について照会



生協から受験生へカップ麺の提供

23・35 トリアージ赤6、黄20(広域搬送依頼)で回答

23・50 附属病院から文部科学省計画課へ現状報告

12日(土)

2・50 DMAT第1班、大船渡病院に初動診療支援へ発電停止

3・35 附属病院の自家発電停止

3・37 自家発電復旧

4・55 第2病棟全面停電

5・00 第2病棟2階、自家発電開始。3階以上は停電が続く

5・12 第2病棟すべて自家発電へ

5・20 電力復旧。自家発電から電力発電へ

7・30 DMATに同行した大学職員より大船渡病院に到着(6・30)し、活動を開始したとの連絡が入る

8・25 後期試験の開始時刻を変更。教育文化学部は1時間、医学部医学科は30分開始時刻を繰り下げ。医学部保健学科、工学資源学部は予定通り実施。大学生協では秋田駅で後期試験の実施についてアナウンスしたほか、朝食を取っていない受験生と保護者へカップ麺とペットボトルのお茶を提供

終日、受験生や保護者から所在確認や後期試験の実施について問い合わせの電話が入る

23・35 トリアージ赤6、黄20(広域搬送依頼)で回答

23・50 附属病院から文部科学省計画課へ現状報告

12日(土)

2・50 DMAT第1班、大船渡病院に初動診療支援へ発電停止

3・35 附属病院の自家発電停止

3・37 自家発電復旧

4・55 第2病棟全面停電

5・00 第2病棟2階、自家発電開始。3階以上は停電が続く

5・12 第2病棟すべて自家発電へ

5・20 電力復旧。自家発電から電力発電へ

7・30 DMATに同行した大学職員より大船渡病院に到着(6・30)し、活動を開始したとの連絡が入る

8・25 後期試験の開始時刻を変更。教育文化学部は1時間、医学部医学科は30分開始時刻を繰り下げ。医学部保健学科、工学資源学部は予定通り実施。大学生協では秋田駅で後期試験の実施についてアナウンスしたほか、朝食を取っていない受験生と保護者へカップ麺とペットボトルのお茶を提供

終日、受験生や保護者から所在確認や後期試験の実施について問い合わせの電話が入る

9・30 秋田県学術振興課から入試開始時刻について確認の電話

9・50 取材に来ていた報道機関に試験室(一般教育棟2号館)を公開

10・15 附属病院外来駐車場内にヘリポートの場所を確保

11・30 附属病院スタック(カップ麺)を購入。手形キャンパスでは大学生協の食堂がラーメン・うどんを受験生と保護者に無料提供(約200食)

12・30 暖房用灯油を確保のため、ガソリンスタンドへ16・30頃調達(11缶)、学生会館へ

13・00 附属病院外来駐車場にヘリポート設置完了。県に広域搬送受入可能と回答

14・20 附属病院より文部科学省計画課へ3月14日の診察を休診する旨、また3月15日の診察についても未定である旨報告

15・00 大学生協に大会館を避難所とすることを打診、了承を得る。食事の提供を申し出てもらう。各

秋田大学生協同組合



生協からおにぎりの炊き出し

在学、大食事をし、災害発生後、被災者に対する支援活動を行う。被災者に対する支援活動を行う。被災者に対する支援活動を行う。

在学、大食事をし、災害発生後、被災者に対する支援活動を行う。被災者に対する支援活動を行う。被災者に対する支援活動を行う。

学部試験場本部へ帰宅困難となった受験生に学生会館を開放する旨を連絡。停電中のため、発電機による電力供給を手配

15:30 秋田市の災害対策本部(市防災課)に毛布80人分の提供を依頼

15:40 医学科受験生のうち帰宅困難者(約30人)を手形キャンパスの学生会館へ移送開始(17:00)

16:00 帰宅困難者に手形キャンパスの学生会館を開放。3学部の受験生とその保護者約80人が避難



学生会館に設置された掲示板

16:25 秋田市の災害対策本部(市防災課)から毛布100人が到着

16:35 後期試験の受験状況と帰宅困難となった受験生への対応について、県庁の記者クラブと県警ヘプレスリリース(貼り出し)

16:50 学生会館利用者のための毛布を約50枚二トリから追加調達

17:50 保健管理センターの医師2名と看護師1名を避難者の体調不良等対処のため待機させる(21時解除)。試験終了後、各試験室から石油ストーブを学生会館へ運搬

18:15 電力復旧

18:20 大学生協が滞在者リストを作成(86名)。無償で食糧及び飲物を支給し、携帯電話機の充電サービス(手動)も実施する。また、各種相談に対応する窓口を設置。一時避難者のうち身内が迎えに来て帰った者ホテルへ移動した者、夜行バスに乗車できた者等を除外すると約60人が学生会館で一晩を過ごす



携帯電話の充電サービス

13日(日)

6:30 大学生協から学生会館に宿泊した受験生等へ朝食(ご飯・味噌汁・焼きそば・マカロニサラダ・ひじき・切り干し大根・いぶりがっこ)を提供。新入生から入学手続きやアパートの契約について電話での問い合わせが多数入り、生協サポートセンターの電話は早朝から昼前までふさがりっぱなし

8:40 3月14日の診療について打ち合わせ



医学部災害対策本部

21:05 停電の影響で練炭使用者が増えたことから、一酸化炭素中毒者が附属病院救急部に殺到した



急患の対応

10:20 手術に関する打ち合わせ。DMATスタッフから大船渡病院での活動終了したとの連絡が入る

11:30 各診療科・中央診療施設長等及び看護部関係者、コメディカル代表者等へ3月14日の診療や手術について説明

13:55 防災センターに14日の診療体制について報告

8:05 DMAT第2班、岩手県庁へ出発

午前中の役員ミーティングで後期試験の追試験(救済措置)を3月18日に実施することを決定

12:33 DMAT釜石病院で活動開始



被災地へ向かうDMAT第2班

秋田大学生協同組合 食材・食品の確保について(3月14日(月))

- 食堂スタッフがスーパー等へ食材の買い出しに奔走する。野菜を中心に2~3日は提供できる食材を確保。
- 米の入荷の目途が立たないため、渡部秋田大学監事がJA新あきたへ米の確保について打診。約1か月分にあたる5トンを確保。
- その他食材の手配のため「コープあきた」に協力を要請。豆腐・卵・納豆・食肉を仕入れる。また「コープあきた」から取引をしている青果店を紹介してもらい、生協食堂で使用する量(品目)だけ野菜を卸してもらおう。

14日(月)

8:00 大学生協スタッフが発食材・食品の確保に奔走

14:07 岩手医科大学においてDMAT解散↓16:25附属病院到着

23:03 岩手県庁からDMAT依頼

8:25 静岡DMAT待機要請解除

9:00 前日電話が通じなかった追試験対象者に対し、再度電話連絡

10:30 学生の安否確認状況(15日17:00現在)を秋田県学術振興課へ報告

11:30 緊急役員会で平成22年度卒業式の中지가決定。大学HPへの掲載と県庁の記者クラブヘリリース

16日(水)

8:50 福島県立医大から透析患者(重症)5名搬送連絡↓関東地区の病院で受け入れたため、搬送されず

9:30 追試験対象者(県外在住者に限る)1125名に追試験の実施について電話連絡

10:30 学生用ポータルサイト(a.net)へ「東北関東大震災救援金の募集」について掲示

16:00 追試験対象者の65%にあたる733名に連絡済み

17:00 学生の安否確認状況。在学生4883名のうち3760名(77%)から連絡あり

22:40 静岡地震でDMAT第3班待機要請

15日(火)

8:50 福島県立医大から透析患者(重症)5名搬送連絡↓関東地区の病院で受け入れたため、搬送されず

9:30 追試験対象者(県外在住者に限る)1125名に追試験の実施について電話連絡

10:30 学生用ポータルサイト(a.net)へ「東北関東大震災救援金の募集」について掲示

16:00 追試験対象者の65%にあたる733名に連絡済み

17:00 学生の安否確認状況。在学生の90%にあたる4323名から連絡あり。文部科学省法人支援課へ報告

17:00 追試験対象者への電話連絡終了。対象者の87%にあたる981名と連絡がとれる

15:30 追試験の実施について大学HPへの掲載と県庁の記者クラブヘリリース

16:00 秋田大学HP及び学生用ポータルサイト(a.net)に「学生の安否確認について」を掲載。情報提供用のメールアドレスを設定し、学生から安否情報を収集

16:39 教育文化学部の学生から「無事」のメール第一報が入る

17日(木)

7:50 岩手医科大学より遣り、災害派遣待機の依頼(翌日以降)

8:50 歯科学会より遣体の歯形確認のため医師派遣依頼



秋田大学本部の災害対応

11:50 DMAT第2班任務完了。避難所を回って帰路。↓17:45帰院

12:00 被災した入学生・在学生に対する経済的救済措置について大学HPに掲載

12:30 岩手・宮城・福島のリジオ局に「後期日程追試験の実施」と「平成22年度卒業式の中止」をFAXで情報提供

15:25 学生用ポータルサイト(a.net)から東北関東大震災に伴う献血のお願いを学生個人宛メッセージに送信

16:06 文部科学省からメールで医師派遣要請が入る

17:00 学生の安否確認状況。在学生の90%にあたる4323名から連絡あり。文部科学省法人支援課へ報告

17:00 追試験対象者への電話連絡終了。対象者の87%にあたる981名と連絡がとれる

11:50 DMAT第2班任務完了。避難所を回って帰路。↓17:45帰院

12:00 被災した入学生・在学生に対する経済的救済措置について大学HPに掲載

12:30 岩手・宮城・福島のリジオ局に「後期日程追試験の実施」と「平成22年度卒業式の中止」をFAXで情報提供

15:25 学生用ポータルサイト(a.net)から東北関東大震災に伴う献血のお願いを学生個人宛メッセージに送信

16:06 文部科学省からメールで医師派遣要請が入る

17:00 学生の安否確認状況。在学生の90%にあたる4323名から連絡あり。文部科学省法人支援課へ報告

17:00 追試験対象者への電話連絡終了。対象者の87%にあたる981名と連絡がとれる

20:00 授業開始日を当初の予定より1週間遅らせ、4月13日とすることを決定

19:15 医療支援第1班より連絡。翌日(19日)から岩手県野田村で活動にあたること

19:30 平成23年度秋田大学入学式の中지를決定。大学HPへ掲載。追試験の受験状況と入学式の中止について県庁の記者クラブヘリリース。

学生用ポータルサイト(a.net)へ「東北地方太平洋沖地震により、入職時期の繰り下げや内定取消等を受けた際の相談窓口」を掲示

18日(金)

9:00 後期日程追試験実施。学生寮の空きがなく、大学生協へ空アパートの状況確認。10戸確保した

10:21 検死支援チーム出発

17:00 学生の安否確認状況。3学部合計で40名から未だ連絡なし

19:15 医療支援第1班より連絡。翌日(19日)から岩手県野田村で活動にあたること

19:30 平成23年度秋田大学入学式の中지를決定。大学HPへ掲載。追試験の受験状況と入学式の中止について県庁の記者クラブヘリリース。

学生用ポータルサイト(a.net)へ「東北地方太平洋沖地震により、入職時期の繰り下げや内定取消等を受けた際の相談窓口」を掲示

10:10 秋田県学術振興課から学生の安否確認状況について情報提供の依頼が入る

13:30 法医学講座から検死医を派遣予定(県警とのチーム)

15:25 学生用ポータルサイト(a.net)に平成23年度前期授業の開始日変更について掲示

17:00 中国大使館から留学生の人数とけが人の有無について情報提供の依頼

19:35 文部科学省からの要請を受け、医療支援第1班が岩手県に向けて出発



教育文化学部卒業証書授与

卒業式中止に伴い、学部ごとに学位記の授与が行われる
○平成22年度秋田大学卒業生1192名(学部卒業生971名、大学院研究科修士課程及び博士課程修了生221名)

23日(水)

13:00 後期日程試験の合格発表

22日(火)

16:30 医療支援第1班、第2班引き継ぎ終了
18:50 医療支援第1班、帰院

21日(月)

5:00 医療支援第2班、出発
9:00 岩手県陸前高田市で活動開始。岩手医科大学チームと合同で診療にあたる

19日(土)

14:00 医療支援第1班、岩手県九戸郡野田村上明内地区(公民館)で診療開始
18:10 医療支援第1班より活動終了の報告

20日(日)

20:00 学生用ポータルサイト(a.net)へ震災の被害に遭われた学生へ生活費等の緊急支援を実施する旨を掲示

24日(木)

13:00 医療支援第3班出発
19:30 岩手医科大学との打ち合わせ。翌日より陸前高田市にて活動
23:00 医療支援第2班、帰院

27日(日)

9:00 岩手大学へ救援物資として灯油1000リットルを搬送
13:00 医療支援第4班が出発し、陸前高田市にて活動
21:45 医療支援第3班、帰院

震災によって中止または延期となった行事一覧

- 3月14日(月) 高大接続教育講演会「初年次教育を考える」(延期)
- 3月17日(木) 平成22年度秋田大学外国人留学生卒業記念パーティー(中止)
- 3月19日(土) 「まなびの総合エリア」第1回オープン研修会(中止)
- 3月23日(水) 平成22年度秋田大学卒業式(中止)
- 4月5日(火) 平成23年度秋田大学入学式(中止)
- 授業開始日を4月7日(木)から4月13日(水)へ

秋田大学附属病院災害対策本部会議【タイムスケジュール】

- 〈毎日〉
- 9:00～ ベッドコントロールに関する打合せ
 - 9:30～ 物流対策に関する打合せ
 - 10:30～ 災害対策に係る情報共有のための打合せ(終了後)外科系医師 手術に関する打合せ
 - 16:00～ 災害対策本部会議
- 〈随時〉 輸血状況に関する打合せ

9:00 岩手大学へ救援物資としてトイレットペーパー28箱(1箱100個)、灯油

29日(火)

9:00 岩手大学へ救援物資として灯油1000リットルを搬送
13:00 医療支援第4班が出発し、陸前高田市にて活動
21:45 医療支援第3班、帰院



岩手大学への支援物資

30日(水)

9:00 医療支援第5班が出発し、陸前高田市にて活動
22:10 医療支援第4班、帰院

20日(日)

13:00 医療支援第3班出発
19:30 岩手医科大学との打ち合わせ。翌日より陸前高田市にて活動
23:00 医療支援第2班、帰院

24日(木)

13:00 医療支援第3班出発
19:30 岩手医科大学との打ち合わせ。翌日より陸前高田市にて活動
23:00 医療支援第2班、帰院

27日(日)

9:00 岩手大学へ救援物資として灯油1000リットルを搬送
13:00 医療支援第4班が出発し、陸前高田市にて活動
21:45 医療支援第3班、帰院

30日(水)

9:00 医療支援第5班が出発し、陸前高田市にて活動
22:10 医療支援第4班、帰院

被災地医療支援報告

秋田大学医学部附属病院では被害の激しい地域への医療援助を可及的早期に開始するため、DMAT(災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team))を震災間もない地域に派遣し、ライフラインの断絶した地域での緊急医療活動にあたった。続いて、3月17日から医師2、3名、看護師2名、事務職1名からなる医療支援チームが投入され、さらに、被災者や現地で働く医療スタッフのメンタルケアの目的で、精神科医等を中心とする心のケアチームが別動で派遣されている。筆者は、医療支援チームの第2班から第4班に団長として同行し、市の大半が津波被害にあった陸前高田市で活動した。

陸前高田市の地域医療の中心であった県立高田病院が津波で機能を失ったため、震災を免れた陸前高田市米崎地区のコミュニティセンター(以下コミセン)が拠点となった。コミセンにはすでに、三重、東京、岡山、北海道、岐阜、九州、岩手など大学、医師会、病院単位、看護協会と様々な陣容で医療支援チームが入っていた。朝のミーティングでは担当者から陸前高田市の各地区の状況報告や各チームへの割り振り確認、さらに各チームから患者の要求や不足物品の報告、後方支援病院の状況についてなど情報交換が活発になされた。

高田病院は市の地域医療の中心として、外来や入院治療はもろろのこと、老人保健施設の巡回診療や訪問診療、小規模診療所での定期診療業務などを担っていた。その業務をカバーするのは容易なことではないが、コミセンは高田病院の外来機能を担うべく整備が進められ、震災発生から2週間ほどで仮の院内薬局が診療スペースの一面に設置された。しかし、陸前高田市の各避難所に開設された診療所や自宅におられる被災者のための訪問診療など物資の供給体制が整わない中で、医療の供給は困難な状況が続いていた。秋田大学は当初、コミセンでの外来診療に加えて小規模診療所外来と老人保健施設での診療を担当。小規模診療所では朝9時に現地に入ると、すでに患者が外にあふれていた。その日は百数十名の患者の診療にあたり、隊員



陸前高田市風景

は午後3時まで休みなしで診療を行った。震災後、現地に医療が入り始めて日が浅い時期で、医療ニーズは大変大きかった。担当した老人保健施設には100名ほどの入居者がいたが、施設の半分が崩れる可能性があったため、いつもの半分のスペースで療養せざるを得ない状態であった。ここに避難者250名が加わってホールや廊下、さらに老人の療養環境に入り混じって避難生活をおくっていた。超高齢者たちにとっては極めてストレスが強く、感染の危険性も高い状況が生まれていた。水もなく手も洗えず、衛生状態も悪く、どこかのように感染管理を行うのか。普段、当然のようにしている感染制御の手法が適用できない状況を初めて経験し、避難所や療養所の環境整備には感染制御の視点も重要であり、そのため設備や器具を工夫する必要があると実感した。できることは限られていたが、派遣された隊員や別のグループ担当者らにも知恵を絞ってもらい、できることから対応にあたった。初めはただやみくもに動いたが、一歩下がって人々を目を向けると、我々支援チームと一緒に精力的に働いている地元の方々のことが見えてきた。驚いたことに、(というより当然のことだが)殆どの方が家を流され、家族が行方不明であったりして、ご自身も避難所から毎日通って業務をこなしているという。何故人をここまで支え、動かすのか、言葉にうまく表現できない感慨を覚えた。「普通」に働く人々が崇高に見えた。



米崎コミセンでの朝のミーティング



老人保健施設での診療

留学生の声



スプリンクル タマラさん
交換留学生/アメリカ



房賢智(リョウジ)さん
教育文化学部2年/韓国

東日本大震災、そして東京電力福島第一原発の事故は、秋田大学で学ぶ留学生に「不安」を与えたことは確かです。秋田大学では交換留学生2人が辞退、7人が留学期間を変更しました。しかし、学部・大学院で学ぶ正規留学生たちは春休みに里帰りした人たちがもたらす不安が、余震に不安を抱えながらも、この地で学んでいる。そんな留学生たちの声を聞きました。

韓国からの留学生で教育文化学部2年の房賢智(リョウジ)さんは「電気が使えないと寒いし、情報が伝わってこない。携帯電話のバッテリーがなくなり、パソコンも使えず、テレビも映らない。情報を得ることができない怖さを初めて感じました」。房さんは地震発生後、春休みということもあり、一度韓国へ帰国。再び日本に戻ることに、周囲からは心配する声もあつたといいますが、「姉妹には止められません。両親からはせっかく留学しているのだし、授



秋田大学で学ぶ留学生たち

業が始まるなら帰りなさいと言われました」。アメリカから留学している交換留学生のスプリンクル・タマラさん。「地震で停電したとき、すごく不安で、アメリカの家族に会いたくなった」と話します。「幼い頃にアメリカでも地震を経験しましたが、こんなに大きいのは初めてです。被災地の津波の映像を見て、すごく怖くなりました。スプリンクルさんも春休みに帰国。日本へ戻ることについては「アメリカの大学や友人には反対されましたけど、気にしませんでした。大学で勉強したいと思ったし、秋田は大丈夫」。

どんなに住み慣れた街でも地震や停電といった非常事態に直面すると不安になるもの。まして異国の地であればなおさらでしょう。それでも「大学で勉強がしたかった」「みんなに会いたかった」と笑顔で話す留学生の顔を見て、とてもうれしくなりました。留学生のみなさんには心から「おかげです。秋田に帰ってきてくれてありがとうございます」と伝えたいと思います。

ものづくり創造工学センター

学生自主プロジェクトの紹介

センター長 神谷

修 Kamiya Osamu

「発電プロジェクト」

現在、ものづくり創造工学センターでは、創造的なエンジニアの育成を目指す、学生自主プロジェクトを支援しています。今回は人の力を使った発電システムを考案している「発電プロジェクト」を紹介し、地元自治体と連携を図りながら開発された発電装置は学生達のアイデアがあふれ、発電などの緊急時にも応用できる素晴らしいものになりました。今回は装置の紹介と試行錯誤の過程についてプロジェクト代表で工学資源学部環境物質工学科4年の石井誠一君に紹介してもらいます。



「発電プロジェクト」の代表をしている石井です。私たち発電プロジェクトではこの1年間で、「自転車発電機」の開発・研究に取り組みしてきました。メンバーは機械工学科と環境物質工学科の学生6人です。今回、プロジェクトでは横手市から「健康とエコ」をテーマに自転車を使った発電装置の開発ができないか

という依頼を頂いていました。そのため、3月までに横手市へ3台の自転車発電機を納入させることを目標に1年間活動してきました。

プロジェクトでは試作機の開発や実験データの収集、発電機の性能について研究しています。タイヤの回転速度と発電電圧の関係を軽めの運動で発電できる電力量の調査、電池の充電実験など約2、3か月を費やし、最終的に3台の試作機を開発しました。

そして、そのデータを基に横手市と共同で3台の発電機を製作。完成までには約4か月の時間を要しました。

完成した3台の自転車



発電機「YOKODEN(仮称)」では携帯電話の充電を始め、家庭用の交流100Vの電源として、テレビ・ラジオ・DVDプレイヤーなどの家電機器も使用できます。また自転車を載せる台を考案。タイヤの回転が発電機へ上手く伝わり、さらに高齢者でも軽い負担で利用ができ、騒音も気にならない程度に抑えることができました。また、普通のママチャリをほぼ無改造で使用できる点も大きな特徴です。

3月に起こった大地震とその余震では秋田でも長時間の停電を経験しました。そんな時にも非常用電源として使え、防災グッズの一つとしても大きな活躍が期待できます。横手市に完成したY²(ワイワイ)プラザでのオープンングセレモニーで発表し、一般の方に使って頂けるように設置します。今後、Y²プラザの新しいシンボルにもなってもらえればと思います。

Column 文章カUP



エントリーシート

トの書き込み欄は、微妙な分量ですね。盛りだくさんに書き込むだけのスペースはないし、箇条書きでごまかすには広すぎる。適度な表現力も求められるし、エピソード(場面)を盛り込むなら厳選しなければならぬ。この出来事がまさに私の姿です、というエピソードを探すのはなかなか難しい。ちょっと大げさかもしれませんが

が、エントリーシートを書くことは、自分の歩みと向き合う作業ともいえます。さて今回は「学生時代に力を入れたこと何ですか」という質問について考えてみましょう。エントリーシートだけでなく、面接試験などでも問われることが多いでしょう。

「クラブ活動です」

「アルバイトです」

確かにそうなのかもしれないですが、こんな書き出しになってしまうと、その後の展開は苦しいものがあります。

実際によく見かけたのは「私は〇〇のクラブで、キャプテンをしています。弱チームだったのですが、みんなで練習し

て勝てるようになりまし。チームワークの大切さを知りました」「みたいなパターンです。

またアルバイトでは「〇〇のアルバイトを4年間続けました。最初はとまどいでしたが、最後はリーダー的な役割を任せられるようになりました」のような展開。

このような回答に対して、試験官としては「それは良かったですね」。回答者が「夢中」になって答えるほどに、正直言って興味を失ってしまいます。

では、試験官はこの質問を通じて何が知りたいのか。何を感ずたいのでしょうか。

結論から言えば「回答者

が(クラブ活動やアルバイトといった)それぞれの場面で、人とうかがわったのか」という点だと思っ。そして、その人の「立ち位置」を知りたい。例えばクラブ活動。同じスポーツをやっている人も、目標は様々でしょう。オリンピックを目指す人もいれば、全国大会や県大会を目指す人もいます。楽しければいいという人も、中には彼女(彼氏)探しが目的の人もいます。一つの活動を軸に集まったとはいえ、多種多様な人たちの集結。笑い、協力、トラブルもあったことでしょう。その中の一場面を選び出し、その時に何を考えたのか。それを

書き込んで欲しいのです。アルバイトも同様です。遊ぶ軍資金稼ぎに始めたアルバイトかもしれないが、アルバイト代以外に得たものはありませんか。大学とは違う環境で出会った人はいませんか。その場面を描ければ、試験官はあなたに興味を持ちます。

最後に一つだけ注意点を。エントリーシートに余白を作つてはいけません。1行も残さずに書き込みましょう。自分を知ってもらうためのスペース(チャンス)は、最大限に使いましょう。

秋田大学企画広報課長
(元朝日新聞記者) 高橋 康弘

新研究科長に聞く。

かつて鉱山で栄えた秋田は、その技師を育てるために秋田鉱山専門学校を創設。それが秋田大学鉱山学部の前身となり、現在の工学資源学部がその意思を引き継いでいる。秋田鉱山専門学校から数えて、今年で100周年を迎える工学資源学部。この春、工学資源学研究所長に就任した小川信明教授に話を聞いた。

◆研究科長に就任にあたっての抱負を。

今年が学部が100周年を迎える節目の年。秋田大学が長年培ってきた力が実を結ぶ時期だと思っ
ている。大学院の改組、共同大学院の設置、10月には100周年のイベントも行う。様々な事が具体的に動いていく年となる。研究科長就任1年目として良いスタートを切りたい。

◆資源を軸に世界が回っている現在。秋田大学の資源外交が注目をあつめているが。

秋田大学は、地質調査、採鉱、選鉱という資源開発の一連の流れを学べる国内唯一の大学であり、その技術は世界トップレベル。資源保有国の中には、自国で資源開発できない国もある。そのような国へ秋田大学のノウハウを提供する。それにより、資源保有国との友好関係が築け、資源を持たない日本の将来的な資源の安定確保につながる。ポツワナ、モンゴル、カザフスタン・・・フィールドは広がっている。また、国内の鉱山の多くは閉山してしまっているため、フィールドワークの場を失っている。海外の生きた鉱山を活用したい思いもある。



小川 信明 教授 Ogawa Nobuki
工学資源学研究所長・専門は分析化学・環境科学・電気化学

◆2012年に開設する秋田県立大学との共同大学院設置について。

共同大学院には、リサイクルから廃棄までを2年間で体系的に学ぶ「共同ライフサイクルデザイン工学専攻」を置く。
大学同士が教育資源を共有する事により、教育研究が促進され、学生の研究の幅を広げることができる。「資源」と「工学」は融合する分野が多い。互いにくまばらなバランスアップさせていきたい。

◆学生に期待することは。

今の学生は、昔の学生と比べると元気がないように感じる。その反面、何かきっかけさえあれば、驚くほどの成長を遂げる。可能な限り、その機会を作り出し、モチベーションを持たせるような取組みをしたい。また、教職員、学生が気軽に交流を持ち、笑いの絶えない環境を目指したい。県内の企業とも繋がりを更に深め、大学としての活動の場を広げていきたい。

玉川温泉からレアメタルを発見

大仙市田沢湖にある玉川温泉の源泉の一部に、インジウム等のレアメタル(希少金属)が微量に含まれている事が、秋田大学等で構成する研究チームの研究で分かりました。



玉川温泉の源泉の大噴

まつており、温泉水から見つかるのは、全国的にも珍しいケースです。今回見つかったレアメタルは微量にとどまるため、資源としての活用は難しいですが、人工的なレアメタルの鉱床の形成や水からの抽出技術など、今後の研究に繋がるのではと

期待を寄せます。もともと、強酸性温泉水の河川環境への影響を解明することが目的でしたが、大噴温泉やその下流を流れる河川やダムを調査したところ、流量が少ない河川やダムの石や土砂が赤く変色しているのを発見。今回の研究成果に結び付きました。この成果を踏まえ、秋田大学はレアメタルが回収可能かどうかの調査に着手しています。

研究室から

人に優しい工学技術



高野 千尋 特任助教 Takano Chihiro
大学院工学資源学研究所 電気電子工学専攻・専門は医用福祉工学

視覚、聴覚などの身体機能の衰え、知的・記憶機能の低下。齢を重ねると人間の機能は残念ながら衰えていく。だが、それらを補助する機器が安価に世の中に広まれば、高齢者社会も安心ではないだろうか。医用福祉工学は、人の暮らしを工学の力で支える分野。それが、高野千尋特任助教の専門だ。心拍数、呼吸数、重心動

揺等……。研究は生体から徹底的にデータを収集し、解析することから始まる。例えば、「車椅子」や「補聴器」等の福祉機器。それらは収集したデータをもとに、その人に最も使いやすいように設計されている。人工的で冷たい印象がある機器にも「人への優しさ」が詰め込まれています」と高野特任助教は言う。

「支える側が、いつの間にか助けを求めるとなると、客観視することは難しい。高野特任助教の研究室には、横断歩道をバーチャルで体験させ、その様子をモーションキャプチャで記録する「わたりジョーズ君」と呼ばれる機器がある。「自分なら大丈夫」という過信が、時に大きな事故へと繋がる場合もある。確かなデータを入手し、交通指導に活かす。そんなアプローチの仕方もある。

東京都出身。大学時代、機械やオイルだけでなく、人と向き合う人間工学の世界と出会った。親の看病も経験した。その時感じたこと。「支える側が、いつの間にか助けを求めるとなると、客観視することは難しい。高野特任助教が目指すのは、そんな未来だ。」

研究室から

催眠の秘密に迫る

清水 貴裕 講師 Shimizu Takahiro

教育文化学部 教育心理学講座 専門は臨床心理学

魔術師が、相手を思いのままに操る姿。「催眠」と聞くとそんな光景が浮かぶ。

「催眠と睡眠とは違います。催眠という状態は、眠っているわけではなく、意識も遠のいてはいません。身近な例えを考えると、何か一つの事に没頭している時のような状態。決して自分で自分をコントロールできなくなることはありません」と清水貴裕講師は話す。

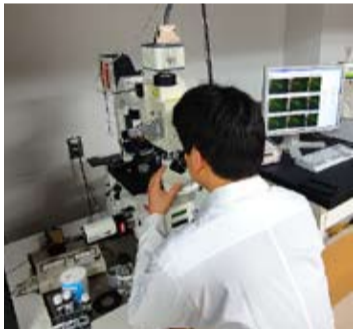
催眠の歴史は古く、数千年前から、その力が使われてきた。だが、催眠がなぜ起こるのかは、未だに明確には分かっていないという。

「読み物としては面白いんですよ。でも、実際はこの本のように相手を一方的に催眠状態にすることはできません。もし恋愛が成就したとしたら、もともと脈があったという事ではないですかね」

催眠の力は今でも療法の手法の一つとして



用いられている。その有効性から催眠療法を学ぶ医療関係者も少なくない。だが、ほとんどの人は、催眠と聞くと少し敬遠してしまうのが実情ではないだろうか。実は、そうした人々の持つ催眠に対するイメージが催眠療法にとって大事なかもしれないと清水講師は語る。今、力をいれているのが、催眠現象と催眠療法による心の問題からの回復の関連性。個別の研究はすすめてきているものの、その関連性については、ほとんど研究されていない。その間をつなぐものとして考えているのが、人々が催眠に対して抱く思いである。「そこに心の回復の重要なヒントがあるよ



ヒトの体は約60兆個もの細胞でできており、私達の生命活動は、様々な機能を果たす多くの細胞によって支えられています。個々の細胞は細胞膜によって包まれ、細胞膜もまた生命活動に欠かせない働きをしています。細胞膜を構成する脂質の一種、ホスホイノシタイド。8種類のホスホイノシタイドは、47の酵素によって生成・分解される代謝系を構成します。この脂質の生成や分解に関わる酵素群は幅広い疾患の新しい治療薬の作用点として有望と考えられます。

病態関連膜脂質代謝の最先端研究―医薬応用への戦略的展開―
大学院医学系研究科教授 佐々木 雄彦

●宿主脂溶性シグナル伝達システムからみたウイルス病原性発現機構の解明
大学院医学系研究科 教授 今井 由美子

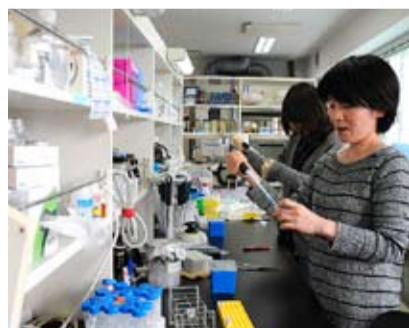
私たちは、モデル動物としてマウスを使った遺伝子工学（遺伝子を人工的に操作する技術）の手法を、この代謝系の研究に逸早く導入しました。そして、各種の代謝酵素を持たないマウスが様々な病気に罹りやすかったり、逆に、罹りにくかったりすることを見つけました。この研究分野で、私たちは世界をリードしています。独自の知見を健康社会の実現に役立てたいと考えて、臨床医学に精通する医学博士と、生体分子に拠つた生物学に長ける薬学・理学・農学博士の英知を結集して研究を進めます。治療効果が優れ安全で革新的な日本発の医薬品開発に役立つ、大きな研究を展開したいと考えています。

H5N1鳥インフルエンザの流行は現在も続いています。また、今後新しいウイルスによる重篤な感染症が起る可能性もあります。研究の成果は、このような未だ治療法のない重症ウイルス感染症の治療法の開発に繋がります。

重篤な病気を引き起こす多数の人命が失われ、我々の生活は多大な影響を被りますが、ウイルスが致死的な病気を起こすメカニズムには不明な点が多く、未だ有効な治療法がありません。ウイルスに感染すると、宿主（ヒト）の体内では病気を引き起こす生体シグナルのネットワークが形成されます。本研究では脂溶性分子によるシグナル伝達に焦点を当て、ウイルスが重篤な呼吸不全を引き起こすしくみを解明し、治療法の開発を目指しています。研究の特色の一つは、ウイルス病原性に関して、これまでブランクボックスであった宿主システムに焦点を当てている点です。

●マウスの心臓の機能的な遺伝子ネットワークの統括的理解のための基盤作成
大学院医学系研究科 准教授 久場 敬司

心筋梗塞や心筋症、不整脈といった心臓病の原因となる遺伝子が次々と報告される一方で、心臓の遺伝子全体の動きや遺伝子の機能的な相互作用は不明なままです。私達はシヨウジョウバエの遺伝子8000個をRNA干渉（遺伝子の発現を抑制する手法）で1つずつ破壊。そのハエを実験的な心不全モデルとして、コンピュータ解析等を行うことにより、心機能調節における遺伝子ネットワーク予想図を作成することに成功しました。そこで本研究では、このハエでの検討をもとに、ヒトに近いマウスで多数の遺伝子をRNA干渉で破壊し、心臓病モデルでそのマウスの心機能を調べることにし、心臓病の原因や病態の理解を大きく前進させようという世界初の試みです。本研究により心臓病の未知のメカニズムが解明され、新しい創薬ターゲット候補を戦略的に同定することが期待されます。さらに幅広い疾患や臓器についても応用することができ、iPS細胞などを用いた再生医療の発展にも貢献してまいります。



「最先端・次世代研究開発支援プログラム」秋田大学医学部から3名選出

国が若手、女性研究者を支援する「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に、秋田大学医学部から3名が選ばれました。本プログラムは、将来、世界をリードすることが期待される潜在的可能性をもった研究者を支援する制度で、2013年度まで費用の助成を受け、生命機能の解明などの研究に取り組みます。

シヨンの推進に寄与するものと期待されます。

学長2期目の就任にあたって

学長 吉村 昇



未曾有の大震災が3月11日東日本を襲い、多くの尊い命が失われる等甚大な被害をもたらしました。驚愕すべき自然の猛威を改めて痛感するとともに、これから、大学としてどう行動し、何をなすべきかを考える日々でもあります。

平成23年4月から3年間引き続き秋田大学の舵取りを託されました。本学は中期目標・中期計画の2期目の成熟期を迎え、大学の実践・方向性の成果・評価が求められている時でもあります。同時に、国立大学法人を取り巻く状況はますます厳しく、加速する運営費交付金の削減や東日本大震災の影響など多くの困難が待ち受けております。しかし、このような試練・逆境

の時こそ、科学技術の発展と人材育成を責務とする大学の真価が問われるところであり、そのためには、知恵と人財の宝庫である大学の英知を結集し、「選択」と「集中」をキーワードとした教育・研究の醸成を図る必要があります。とりわけ、シンクタンク機能を有する政策集団としての位置づけ、この機能の充実こそが大学活性化の鍵を握っており、その両軸となるべく設置したのが「地域創生センター」と「国際資源学教育研究センター」であります。地域貢献では、横手分校・北秋田分校を強化することにより地域との絆を深め、また、国際化では、ボツワナやモンゴルの「鉱山学系大学・学部」の新設支援、カザフスタンの

資源開発支援を通じて我が国の資源外交の一翼を担います。正に、「地域力」と「地球力」の充実・発展を標榜する本学の試金石となるものであります。

一方、取り組むべき各学部の重要課題としては、教育文化学部の学部改組、医学部の地域医療と学部創設の原点の再確認、工学資源学部のリーディング大学院構想と国際資源学の充実などが、全学の総力を結集して実現してまいります。

大学は、そこに集うものが誇りを持ち、社会にとつて必要とされ、存在感がなくてはなりません。地域・世界を視野に入れた独創的な挑戦が望まれており、日々共に邁進することをお願いし抱負いたします。

新理事紹介 ―理事就任にあたっての抱負―



理事(総務担当)・副学長

熊田 亮介

このたび、理事(総務担当)に就任しました。総務・人事・企画広報にかかわる所管事項を担当いたします。



理事(研究・産学連携・情報担当)・副学長

西田 眞

秋田大学には15000名以上の教職員と50000名以上の学部・大学院学生が在籍し、多種多様な活動が行っています。その主たる活動が教育と研究となります。両者は異なる活動と捕らえられがちですが、実際は表裏一体の関係を保ちます。



理事(経営・就職支援担当)〈非常勤〉 町田 睿

父が秋田大学教育文化学部の前身、秋田師範学校の卒業生であり、私自身もその附属小・中学校卒業生として育ててもらった恩がある。少子化で大学経営も厳しくなり、大学生を採用する側の要求も厳しくなってきた。特に民間企業は即戦力を期待するようになり、海外指向を強めて語学力への注文も多い。さら

に時代環境の目まぐるしい変化へ適確に対応し、時代をリードする人材を育成することを指すとなれば、専門分野にとどまらず、広い視野で考動し得るリベラルアーツが求められる。秋田大学も、3つの単科大学の寄せ集めであってはならない。

秋田大学は、がん多発・超高齢化先進地域にあつて、日本で唯一の国際資源開発の拠点であり、さらには小・中学生の学力・体力の水準の高さを誇っている秋田に立地している。いわば時代が最も必要とする3つの学問分野を担っているといえる。3学部が共創の精神で時代の要請に応えるならば、秋田ならではの特色ある地方大学として、さらなる発展を遂げられよう。私もそんな心組みで大学経営に参画させてもらいたい。

人事異動情報 (平成23年1月2日~4月2日)

発令年月日	新配置	旧配置	氏名
役員			
3月31日	任期満了	理事(総務担当)副学長	對馬 達雄
3月31日	大学院工学資源学研究科 教授	理事(学術研究・産学連携担当)副学長	井上 浩
4月 1日	学 長	再 任	吉村 昇
4月 1日	理事(教育・学生担当)副学長	理事(教育・社会貢献担当)副学長	吉岡 尚文
4月 1日	理事(総務担当) 副学長	教育文化学部 教授	熊田 亮介
4月 1日	理事(研究・産学連携・情報担当)副学長	大学院工学資源学研究科 教授	西田 眞
4月 1日	理事(財務・施設・環境担当)	再 任	後藤 寛
4月 1日	理事(経営・就職支援担当)〈非常勤〉	新 任	町田 睿

※掲載対象は、部局長・教授以上(学長特別補佐も含む)

人事異動情報 (平成23年1月2日～4月2日)

発令年月日	新配置	旧配置	氏名
教職員 [部局長等兼務]			
4月 1日	学長特別補佐(評価・社会貢献担当)	大学院工学資源学研究所 教授	中田 真一
4月 1日	学長特別補佐(国際交流・ハラスメント対策担当)	大学院医学系研究科 教授	榎本 克彦
4月 1日	学長特別補佐(附属病院担当)	大学院医学系研究科 教授	荏原 順一
4月 1日	学長特別補佐(学長特命事項担当)	教育文化学部 教授	佐藤 稔
4月 1日	学長補佐(男女共同参画担当)	教育文化学部 教授	渡部 育子
4月 1日	学長補佐(知的財産担当)	大学院医学系研究科 教授	杉山 俊博
4月 1日	学長補佐(国際交流担当)	教育文化学部 教授	宮本 律子
4月 1日	学長補佐(ハラスメント担当)	大学院工学資源学研究所 教授	佐藤 博
4月 1日	学長補佐(高大連携・大学コンソーシアムあきた担当)	教育推進総合センター 教授	銭谷 秋生
4月 1日	学長補佐(入試広報担当)	大学院工学資源学研究所 教授	中村 雅英
4月 1日	学長補佐(評価担当)	教育文化学部 教授	志立 正知
4月 1日	学長補佐(国際資源担当)	国際資源学 教育研究センター 教授	水田 敏夫
4月 1日	大学院工学資源学研究所長	大学院工学資源学研究所 教授	小川 信明
4月 1日	附属図書館長	教育文化学部 教授	立花 希一
4月 1日	教育文化学部附属小学校長	教育文化学部附属教育実践 研究支援センター 教授	浦野 弘
4月 1日	教育文化学部附属特別支援学校長	教育文化学部 教授	森 和彦
4月 1日	教育推進主管	教育文化学部 教授	川東 雅樹
4月 1日	総合情報処理センター長	大学院工学資源学研究所 教授	今野 和彦
4月 1日	ベンチャー・ビジネスラボラトリー長	大学院工学資源学研究所 教授	柴山 敦
4月 1日	環境安全センター長	大学院医学系研究科 教授	村田 勝敬
4月 1日	教員免許状更新講習推進センター長	教育文化学部 教授	佐藤 修司
4月 1日	産学連携推進機構長	大学院工学資源学研究所 教授	齊藤 準

発令年月日	新配置	旧配置	氏名
採用・退職・昇任等			
3月31日	理事(総務担当) 副学長	教育文化学部 教授	熊田 亮介
3月31日	定年退職	教育文化学部 教授	小林 正雄
3月31日	定年退職	教育文化学部 教授	寺井 謙次
3月31日	定年退職	教育文化学部 教授	長沼 雅彦
3月31日	辞 職	教育文化学部 教授	日高 水穂
3月31日	辞 職	医学部医学教育部 教授	豊島 至
3月31日	理事(研究・産学連携・情報担当) 副学長	大学院工学資源学研究所 教授	西田 眞
3月31日	定年退職	大学院工学資源学研究所 教授	砂子田 勝昭
3月31日	定年退職	大学院工学資源学研究所 教授	大好 直
3月31日	定年退職	大学院工学資源学研究所 教授	小武内 哲雄
3月31日	契約期間満了	教育推進総合センター 特任教授	佐藤 忠
3月31日	茨城大学総務部長	副理事(総務担当)	松田 栄二
3月31日	熊本大学財務担当部長	副理事(財務・施設・環境担当)	松原 省三
3月31日	新潟大学歯学部総合病院事務部長	医学系研究科・医学部事務部長	波塚 章生
4月 1日	教育文化学部 教授	教育文化学部 准教授	篠原 秀一
4月 1日	教育文化学部 教授	教育文化学部 准教授	長谷川 章
4月 1日	大学院医学系研究科医学専攻 地域医療政策学講座 教授	厚生労働省大臣官房付	井上 裕司
4月 1日	大学院工学資源学研究所 教授	理事(学術研究・産学連携担当)	井上 浩
4月 1日	大学院工学資源学研究所 教授	大学院工学資源学研究所 准教授	長縄 明大
4月 1日	大学院工学資源学研究所 教授	大学院工学資源学研究所 准教授	村岡 幹夫
4月 1日	副理事(総務担当)	東京外国語大学企画調整役	相原 重昭
4月 1日	副理事(財務・施設・環境担当)	徳山工業高等専門学校事務部長	篠山 公郎
4月 1日	副理事(研究・産学連携・情報担当)	学術研究課長	熊谷 覚
4月 1日	医学系研究科・医学部事務部長	富山大学総務部次長	中野 正昭
4月 2日	地域創生センター 教授		松岡 昌則

※掲載対象は、部局長・教授以上(学長特別補佐も含む)

海外渡航 [教職員の外国出張・海外研修] (一ヶ月以上)

所属・職名・氏名	渡航目的	渡航先国	渡航期間	備 考
医学部附属病院 耳鼻咽喉科 助教 川崎 洋平	癌と放射線治療の研究 (ドレスデン工科大学)	ドイツ	23.4.18～25.4.30	研 修
工学資源学研究所 地球資源学専攻 助教 坂中 伸也	フィールド調査のため	南極域	23.1.29～23.3.8	出 張
工学資源学研究所 地球資源学専攻 助教 坂中 伸也	海外派遣(マイアミ大学にて共同研究のため)	アメリカ	23.3.23～23.8.23	平成22年度 秋田大学研究者 海外派遣事業による出張

※外国出張と海外研修の届け出があったもののうち、一ヶ月以上の渡航を対象とする。前回掲載分を除き出発日が決定している渡航を記入。

海外渡航(学生) [学生の派遣事業等]

事業名または経費	留学先大学名(国名)	渡航期間
ルーマニア文化研修	短期留学/ブカレスト大学(ルーマニア)	23.2.27～23.3.29
学生氏名 教育文化学部国際言語文化課程 [3年]伊藤 奈々子 教育文化学部人間環境課程 [1年]濱田 俊太郎 医学部 医学科 [1年]石井 良明 [1年]富澤 宏基		
イタリア文化研修	短期留学/カリアリ大学(イタリア)	23.2.27～23.3.29
学生氏名 教育文化学部国際言語文化課程 [3年]金平 英里子 [2年]桑島 佳代 [2年]田口 萌香 工学資源学部地球資源学科 [2年]佐藤 陵 医学部 医学科 [1年]千葉 倫子		
秋田大学医学部医学科 国際交流基金	短期海外学修/ハワイ大学(アメリカ)	23.2.28～23.3.25
学生氏名 医学部 医学科 [5年]松本 彩和		

教育研究プログラム等採択状況 (平成22年度1月7日～3月31日採択分)

制度名	プロジェクト名	事業期間(年度)	交付金額等(単位:千円)	所属・事業代表者
環境省 平成22年度環境研究総合推進費 再委託	介入研究の評価に関する研究	22年度	845	大学院医学系研究科 教授 村田 勝敬
平成23年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金 アジア・太平洋地域等における開発途上国の教育、科学又は文化の普及・発展のための交流・協力事業	アジアにおける「持続可能な開発のための教育(ESD)」ネットワーク構築のためのワークショップ	23年度	23年度交付予定額 4,000	教育文化学部 准教授 高樋 さち子
独立行政法人日本学生支援機構 平成23年度留学生交流支援制度(短期受入れ)	秋田大学国際交流体験プログラム Akita University Experiential Program	23年度～24年度	10,560	秋田大学長 吉村 昇
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 「研究未開発言語調査派遣事業」	マンデビ語の文分類に関する研究	22年度～23年度	600	国際交流センター 准教授 西田 文信

※競争的資金の22年度新規採択分のうち、追加内定分があったものを記入。前回掲載分を除く。学部によっては、学部から直接公募機関に申請し、採択となったものを記入。前回掲載分を除く。

秋田大学地域創生センター設置

「地域再生のための知の創生」を目指して

秋田大学は今年4月に新しいセンターとして、地域創生センターを開設しました。「地域再生のための知の創生」を目指し活動する組織としてセンター長の下、専任教員、推進役、そして事務組織の地域創生課には9名の事務スタッフを配置し、活動を開始したところです。今、地域の活性化を目指して新たな地域創生が求められています。アカデミアが担う役割には大きいものがあります。地域にとって還元性の高い活動の展開、実践的地域創生リーダーの養成、地域社会学などの学問体系に基づく地域活性化の促進、教育活

動や産業活動への波及などが挙げられると考えます。秋田大学の基本的目標の一つに「地域と共に発展し地域と共に歩む『地域との共生』を目指す」とあります。秋田大学における社会貢献を担う組織については、平成16年度の大学法人化を機に、「社会貢献推進機構/国際交流推進機構」を設置し、その後変遷を重ねて、平成21年度からは「教育推進総合センター社会貢献推進部門」が担当してきました。地域創生センターの設置は、これまでの実績を踏まえ、より一層地域に根差した活動を展開する事が目的です。

例えば、「グローバルな視点にたったローカルからの提言」も発信していくことも考えています。地域への貢献・提言を行いながら、秋田大学が「地域を創る力」の源となることを目指します。また、学生や教職員も積極的に地域から学び、地域に貢献できる人材を育成する一助となることもセンターの使命の一つです。地域へ出向き活動する機会を創出し、学生の皆さんが地域の社会現実に向き合うことから地域に学ぶことが可能となります。センターは、大学が持つ力を活用した地域振興・活性化を目指し、大学と地域



左から 松岡教授(センター専任教員)、中田センター長、吉村学長

が双方向で情報・意見交換を行いながら地域と一体になって「地域創生の取り組み」を展開していきます。
(評価・社会貢献担当) 中田 真一

子どもの理科離れをどう解決するか。その糸口を探ろうと大学が動きます。秋田大学医学部の実習室で、中学生が血液細胞の観察に取り組んでいました。末梢血、骨髄、骨髄組織、それぞれの組織を注意深く観察する表情は、みな真剣です。秋田大学は平成21年度に2年間のプロジェクトとして「理科大好き☆夢発見プロジェクト〜人のからだ マクロからミクロ〜」を立ち上げました。中学生に医療系職業への興味・関心を高めてもらうことが目的です。「医療系の仕事にはどんな職業があるのか知ってる?」中学生がイメージするのは医師や看護師。ですが実際には、検査技師、薬剤師、栄養士等、多くの職業が医



療を支えています。その事実を知ってもらうため、病院、医療器具メーカー等の医療現場を実際に見学し、授業だけでは体験

できない、本物に触れました。何のために学ぶのかを知らなくては、日頃の学習にも身が入らないというもの。そこで、プロジェクトの力

理科好きを 芽吹かせる

プロジェクトを立ち上げたスタッフは「子どもに理科へ興味を持たせるのは学校だけでは難しい。大学や企業などが協力し合い、学習と現場を繋げるようなきっかけづくりが大切」と話します。プロジェクトではテキストを開発。学校で勉強している事が、どのようにならうに医療系の職業に役立っているのか分かる作りとなっています。テキストとDVDは県内中学校に配布したほか、HPからも見ることが出来ます。

「理科大好き☆夢発見プロジェクト〜人のからだ マクロからミクロ〜」
URL: <http://www.akita-u.ac.jp/rikasuki/index.html>



Be the master of your own learning.
The ALL Rooms

- 10:30 ~ 18:00 (平日) 学生支援棟2F
- 対象: 秋田大学の学生なら誰でも
- URL: <http://www.akita-u.ac.jp/allrooms/>

使える英語を学びたい、英語の資格をとりたい。けれども勉強方法が分からない。手形キャンパス学生支援棟2Fにある英語学習ルーム「The ALL Rooms」は、そんな学生のためにあります。「The ALL Rooms」のALLは「Autonomous(=自律の)Language Learningの略で、自分で学習を管理するスタイルの事。自分で目標を定めて学習方法を選択。Listening・Reading・Writing・Speaking、それぞれの技能を、自分のレベルに合わせて、いつでも好きな時間にトレーニング出来ます。1人では何をやっていいのかわからない学生も、留学生やスタッフが設備の使い方や相談にも乗ってくれるので安心。英語を本気で学びたい学生は是非「The ALL Rooms」へ。

TOEIC対策講座のお知らせ
(秋田大学の学生対象)

語学教員&TOEIC専門講師の2段階プログラム

【後期開催】水曜の7・8限に開講(10~12月初旬)
【TOEIC専門講師の集中講義】
12月10日(土)・11日(日)、
1月21日(土)・22日(日) 半日ずつ
●講師: 稲垣 三恵子氏



1965(昭和40)年に
 鉱山学研究所修士課程が設
 置されると、学部は博士課
 程設置に向けた活動を開始
 しました。例えば、68年5
 月に鉱山学部で開催された
 国立大学工学部系学部長
 会議)で博士課程設置が協
 議事項の一つとなり、秋田
 大学・神戸大学などが中心
 となり文部省に「大学
 院博士課程の早期設
 置に関する要望書」
 を提出しました。そ
 の後も毎年開催され
 た学部長会議で博士
 課程設置を再三再四
 議論し、その都度文
 部省に要望書が提出
 されました。80年代
 になって、大学院充
 実に対する社会的要
 請が強まり、また貧
 弱な設備に低迷して
 いた研究状況の打開
 策の一つとして、文
 部省はようやく重い
 腰を上げました。

当初は新潟大学や
 金沢大学の自然科学
 研究科に代表される
 ように、工学部と理
 学部が母体となって
 博士課程が設置され
 ました。鉱山学部の
 将来計画委員会(以下、
 学将委と略)でも、鉱
 山学部と教育学部とで、あ
 りいは鉱山学部を2学部
 分離した上で、博士課程を
 設置する案が議論されまし
 た。ところが、80年代後半
 になると群馬大学や山口大
 学の工学研究科のように、
 文部省は学部の改組・再編
 を行った上で学部単独の博
 士課程の設置を認めるとし
 ました。このような方針転

換は、先に述べた国立大学
 工学部系学部長会議で捉え
 ることが出来、この会議で
 議論され、あるいは意見交
 換された事項は、学部長か
 ら教授会や学将委でその都
 度報告がありました。
 学部・改組再編の見直し
 がついた90(平成2)年度
 から、学将委の議論の中心
 は修士課程の改組・再編及

部省から①修士課程の充足
 率アップ、②④教官の確保、
 ③学部教官の欠員補充、④
 社会との関わり合いなど、
 解決すべき多くの問題点
 が指摘されました。さらに
 博士課程の教官定員が修士
 課程担当教官の6割という
 文部省の方針をクリアし
 た上で、博士課程の専攻数・
 専攻名・カリキュラムなど

こうして90、91年に誕
 生した6学科を基盤に、前
 期課程(6専攻、入学定員
 100名)と後期課程(3
 専攻、入学定員16名)に区
 分された秋田大学大学院鉱
 山学研究所(博士課程)が、
 94年4月に誕生しました。
 後期課程は地球工学・機
 能物質工学・システム工学
 の3専攻からなり、その
 教育と研究の基本を

〈連載〉


秋田鉱山専門学校

まもなく

創立100周年

No.22

名誉教授 学芸員(鉱業博物館元館長)、
 北光会元事務局長 丸山 孝彦



1994年9月27日に開かれた秋田大学大学院鉱山学研究所博士課程設置記念式典
 (秋田大学学報第246号 企画広報課 福田誠氏が復写)

び博士課程新設へと移行し
 ました。前者の修士課程の
 改組・再編は、新学科の上
 に設置する「積み上げ方式」
 を前提としており、大きな
 問題はありませんでした。
 博士課程新設はどうだっ
 たでしょうか?このために
 は、何としてでも政府から
 新設のための調査費を早急
 に獲得する必要がある、文

の具体化を検討する必要が
 ありました。そこで、91年
 7月に学将委の中に設置し
 た博士課程設置準備委員
 会を中心に、議論が進まし
 ました。一連の努力が実り、92
 年度政府予算に調査費が計
 上され、学部の全学年がす
 べて再編新学科の学生とな
 る94年に博士課程設立の見
 通しが立ちました。

現して感慨無量でした。
 '96年度から10年度末迄
 の15年間の博士学位授与
 者数は、課程博士(博士(工
 学))182名(内留學生35
 名)、「博士(資源学)」6名
 (内留學生3名)、それに論
 文博士(博士(工学))39名
 (内外国人2名)、「博士(資
 源学)」1名(外国人0)。
 (以下次号に続く)

ニュース&トピックス

News & Topics

男鹿市と 連携協定を締結

秋田大学は秋田県の中央
 部に位置する男鹿市と2月
 17日、双方の発展に寄与す
 ることを目的に連携協定を締
 結しました。
 締結式で吉村昇学長は「学
 生が男鹿市民との交流を図
 る機会を積極的ににつくつ
 ていき、若者の力による地域
 の活性化を目指したい」と話
 しました。



けて取り組んでいきたい」と
 述べました。
 学生自主プロジェクトを
 支援するものづくり創造工
 学センター長の神谷修教授
 は「ものづくりを通して学生
 の生き生きとした姿を見る
 ことができた。成功すること
 が目的ではなく、学生自身で
 考え、やってみるという過程
 が大切。これをゴールにする
 のではなく、今後ますます発
 展させていってほしい」と話
 しました。

「学生自主プロジェクト 成果発表会」を開催

学生が自主的に考えたプ
 ロジェクトを支援する取組
 みを、秋田大学大学院工学資
 源学研究所が昨年4月から
 進めています。その成果発表
 会が3月2日開催され、学生
 がこれまでの進捗状況や今
 後の課題について発表しま
 した。



大学院工学資源学研 究科の土岐仁教授、 文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

秋田大学大学院工学資源
 学研究所の土岐仁教授が平
 成23年度文部科学大臣表彰・
 科学技術賞を受賞しました。



この表彰は科学技術に関
 する研究開発・理解増進等
 において顕著な成果を収めた
 者がその功績を讃え、
 我が国の科学技術水準の向
 上に寄与することを目的と
 するものです。
 土岐教授は大学生の宇宙
 技術競技会「能代宇宙イベン

ト」の開催や高校生を対象と
 した「ロケットガール養成講
 座」の実施など、「プロジェ
 クト遂行体験」による科学技
 術への理解増進に寄与した
 ことが評価されました。

JOGMECと 資源分野での 協定を締結

秋田大学は独立行政法人
 石油天然ガス・金属鉱物資
 源機構(JOGMEC)と資
 源分野での協力に関する基
 本協定を締結しました。資源
 分野の研究調査、教育や技術
 開発の発展、日本の資源の安
 定確保につながる共同事業
 の推進が目的です。今後は人
 材交流や施設設備の相互利
 用、さらに共同研究プロジェ
 クトの推進等を積極的に推
 進していきます。

Student Doctor 認定授与式

秋田大学医学部医学科は
 4月18日、「スチューデント
 ドクター」の認定証授与式を
 行いました。スチューデント
 ドクターとは臨床実習に臨
 む新5年生を対象に、責任感
 や協調性、使命感を高める事
 を目的として、昨年度から導
 入。式では本橋医学部長から
 認定書と名札が手渡されま
 した。学生は今後、医学部附
 属病院や秋田県内の関連病
 院において臨床実習を行
 います。



〈催し物〉……………

産・学・官 連携セミナー ～地方大学発！イチ押し研究～ 「第1回秋田大学 プロの手指を科学する」

複雑で微細な手指の動きを計測できる高速・高精度なモーションキャプチャを世界に先駆けて開発。モーションキャプチャとCGアニメーションを使って、卓越した外科医やピアニストなどの「熟練の技」を記録・分析する技術など、人間の技能を継承する例を紹介。

- 5月12日(木)13:30～15:00
- 東京都港区立商工会館 ●参加無料、要申込
- ☎03・3433・0862

美郷町 秋田大学 連携協定締結記念 レクチャーコンサート「水と音楽」 ～水を表現した作曲家たち～

秋田大学教育文化学部 四反田素幸教授

- 〈演奏〉富樫彩子 小野玲賀 大谷なつ賀
- 5月13日(金)14:45～16:00 ●美郷町公民館
 - 参加無料、申込不要 ☎018・889・2270

秋田大学高大接続教育講演会 「初年次教育を考える」

高校と大学の接続性を高めることを目的とした「初年次教育」は学士課程教育においてますます重要性が高まっている。今回の講演会では、初年次教育に関して先進的な取組を行っている九州工業大学の事例紹介や意見交換を通じて、その実践について学ぶ。

- 5月13日(金)15:50～18:10
- 秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- 参加無料、要申込 ☎018・889・3045

鍵盤の会p.f.第18回定期演奏会

- 5月14日(土)13:30開場、14:00開演
- アトリオン4F 音楽ホール
- 参加無料 ☎080・5491・7843

Sound Sketch30 鷹巣公演

〈演奏〉秋田大学吹奏楽団、鷹巣中学校吹奏楽部

- 5月22日(日)13:30開場、14:00開演
- 北秋田市文化会館 ●入場無料
- ☎080・1825・9762

平成23年度秋大憩いのコンサート

- 【第8回】●5月28日(土)14:00～
「サロンの気分で～珠玉のピアノ小品」
- 【第9回】●6月19日(日)14:00～
「チェロで聴く愛の名曲～クラシックも映画音楽も」
- 【第10回】●7月24日(日)14:00～
「なつかしい歌 メロディーの流れ」
- 【第11回】●8月20日(土)14:00～
「夏の午後～クラリネットの音色とともに」
- 【第12回】●9月25日(日)14:00～
「シューベルトアデーテ～楽しい音楽仲間の集い」
- 秋田大学インフォメーションセンター
- 参加無料 ☎018・889・2647
- ※詳細はHPをご確認ください。

〈その他〉……………

鉱業博物館リニューアルオープン と工事による臨時休館のお知らせ

秋田大学工学資源学部創立100周年記念事業「鉱業博物館リニューアルオープン」

- 平成23年10月1日(土)
- ※リニューアルに伴う工事のため下記期間
臨時休業いたします。
- 平成23年5月9日(月)～9月30日(金)
- ☎018・889・2461

I N F O R M A T I O N & N E W S

リニューアルオープン! 秋田大学附属図書館



2011年4月、秋田大学附属図書館がリニューアルオープン。明るく、使いやすく、多機能に利用できる学びの場として生まれ変わりました。

1Fは調査に役立つ各種資料とPC、無線LANが利用できるリサーチフロア。共同学習が可能なグループ学習室や新聞・雑誌をくつろぎながら眺められるラウンジ、さらに今までの図書館にはない、問題解決型の学習を支援する「 commons」もできました。

2Fは静かな学びの場である閲覧フロア。10万冊の図書があり、様々なタイプの机で読むことができます。また書庫にある総延長15kmの電動式書架には43万冊の書籍が収納されており、自由に入って利用することができます。

閲覧席は全部で252席。学習室や研修室などもあわせると300席以上になります。学生・教職員だけではなく一般の方も自由に入館できますので、ぜひご利用ください。



2F 閲覧フロア



1F コモンズ

「 commons」
●学生の主体的な学
習活動を支援する場



1F ラウンジ

- 開館時間／〈平日〉8:30～21:00 〈土・日・祝日〉10:00～17:00
- ※長期休業期間 〈平日〉8:30～17:00 〈土・日・祝日〉休館
- 【お問い合わせ先】 ☎018・889・2279
- E-mail: riyos@lib.akita-u.ac.jp
- http://www.lib.akita-u.ac.jp

編集 後記

東日本大震災により、被災された方々からお見舞い申し上げます。今回お届けするアプリーレ32号では、特集として震災時の秋田大学の状況を時系列で追ってみました。日本海側の秋田でも、キャンパスは様々な対応に追われました。家族や友人が被災した学生・教職員もいます。それぞれが悲しみと向き合いながら、懸命に暮らしています。こんな時、大学は何ができるのか。引き続き考えていきたいと思っています。

私はこの4月の人事異動で企画広報課に配属になり、今回から初めてアプリーレの制作に携わりました。伝えることの難しさや情報の大切さを改めて実感し、今までの業務では経験することのなかった出会いを日々楽しんでいるとともに、こうして無事に制作を終えることができたのも、取材に協力してくださった方々のご協力によるものだと感じています。ありがとうございます。

今回の表紙は工学資源学部4年の清水祐子さんに協力していただきました。生命科学が専門で、ものづくりにプロジェクトで「日本酒BIJIN」の開発にも挑戦中の学生さんです。リニューアルした附属図書館での撮影でした。(塚)

●アプリーレの由来
アプリーレとは、イタリア語で、「開く、開ける」という意味です。「積極的に秋田大学の窓を開放すること」を意識して名付けられました。